

平成 29 年度 第 3 回石狩市社会教育委員の会議 議事録

日 時 平成 29 年 10 月 4 日（水曜日）午後 3 時 00 分～4 時 00 分
会 場 石狩市公民館視聴覚室
出席者 木村委員長、大橋副委員長、加藤委員、安部委員、石井（量）委員、石井（滋）委員、榎本委員、相馬委員、船木委員、平委員、高橋委員
事務局 東次長、須藤主査、斉藤主査（社会教育主事）栗谷主査（社会教育主事）

斉藤主査：これより平成 29 年度第 3 回石狩市社会教育委員の会議を開催させていただきます。初めに木村委員長よりご挨拶を頂きます。

木村委員長：9 月 11 日から 13 日まで札幌で社会教育委員の全国大会が開かれて多くの社会教育委員の皆さんが参加、前の日からお手伝いをさせていただいてありがとうございました。特に石狩では、浜益で大雨が降って、大きな災害になりました。ニシン番屋が水をかぶってすっかり泥だらけになっていたり、階段の石垣が崩れたりとか、社会教育施設にとっても大変なことが起こりました。地球の温暖化ってということもあり、災害の問題をどうするのかっていうのは、私達社会教育にとっても、大事なことになっていくのかなと思いますながら帰ってきました。

今日は、今年度、厚田とか浜益のことをやろうということで、皆さんにおはかりしたいと思います。

斉藤主査：それではこれ以降の進行につきましては木村委員長にお願いしたいと思います。

木村委員長：会議次第に従いまして、会議を進めたいと思います。まず最初に報告 1、第 2 回社会教育委員の会議の概要、書面による答弁の概要について事務局から報告をしていただきます。

須藤主査：「第 2 回石狩市社会教育委員の会議、書面による協議」について報告いたします。

（以降説明）

木村委員長：ただいまの報告でよろしいですね。

（意見なし）

では次に、報告 2 です。第 59 回全国社会教育研究大会北海道大会兼第 57 回北海道社会教育研究大会兼第 37 回北海道市町村社会教育委員長等研修会が、9 月の 11 日から 13 日の 3 日間、札幌市のコンベンションセンターで開催されました。全体の参加者が申し込みの段階で 1,027 名、内北海道が 786 名でした。社会教育委員の皆さんが 9 人参加していただいて、前日の準備、当日の朝早くからの準備、それから全体会のお手伝い、職員の皆さんも大変でしたけれども、それと次の日の分科会への参加、最後は北大に集まって学生食堂でご飯を一緒に食べるというオマケまでつきましたけれども、ありがとうございました。たくさんの方が参加されているので、特に自分の出た分科会を詳しく報告するっていう必要はないと思うんですけども、一言全体の感想も含めてお話しをしていただきたいと思います。

私は実は接待係ということで札幌市長だとか北海道知事の相手をするということになっていましたが、ほとんど議会中だったので、知事も札幌市長も直接舞台上昇って舞台を見たらすぐ帰り、相手をしたのは文科省の方と北海道の教育長だとかでした。それで全体会の様子はよくわからないのですが、2 日目は分科会が 3 つあって、社会教育施設の在り方と社会教育委員のかかわりという分科会に出ました。6 人の参加者がいらっしやって、道外の方は 1 人だけだったんですけども、司会をさせられ、施設のことで学芸員の方が 2 人ぐらいらっしやって、社会教育施設に積極的に地域の人たちが関わっていくということが必要だっていう事だとか、ボランティアの重要性という事が議論されました。最後に報告がなく、ながれ解散にはなかなか慣れていないので、皆で作り上げたという感じがちょっと少ないような気がします。それでは、一言ご感想をお聞きしたいと思います。高橋さんどうぞ。

高橋委員：私の仕事は掲示物を貼るという担当だったんですけど当日、北広島の人と 2 人で 6 枚くらいをテープで机に貼り付けて終わり。私が感動したのは、記念公演の植松さん、大樹町のロケット飛ばす社長さんその話が凄く、物凄く興味があって、集団からちょっと外れていたような写真を写していて、そういう人が世界的に有名な社長さんになるんだと思ってすごい感動しました。あとは最終日のお昼、伝統のありそうな、安くておいしい、伝統があってなんかこう初めての体験でおもしろかったかったです。ありがとうございました。

木村委員長：相馬さんいかがでしたか？

相馬委員：第 6 分科会に入ったんですけども、色んな勉強させていただきました。私達の分科会は、富山県の方一人と、それから上川、十勝管 2 名、根室と私で 5 名なんですけど、もちろん人口は浜益より全然多いんですけども、過疎化のこと、やっぱり仕事がないこ

とということも含めて色々な意見が出ました。社会教育委員と地域の関わりというのがスムーズにっていないという話題になり、石狩市の中でも、社会教育委員の住民とのつながりをもっと進めていかなければならない時があると思いました。

木村委員長：ありがとうございます。平さんはどうでしょうか？

平委員：第5分科会では、非常にディスカッションが活発で、社会教育委員の役割について話し合いました。私自身が事例として大学図書館と社会教育施設、図書館との連携などの可能性について、いくつかの事例を話題提供しました。道外の方も参加していて、今後連絡を取りながら、活動の場を広げていくことにつながり、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。

木村委員長：それでは石井さんどうぞ。

石井（滋）委員：準備の方も分科会の方も参加できませんでした。2日目のアトラクションの講演を楽しく聞かせていただきました。

石井（量）委員：私は6分科会の方だったんですけども、どこの地域も、抱えている問題は共通している、過疎であれ都会であれ、今、日本全国どこも心配している問題は高齢化だとか子どもに関すること。奈良県の方が一緒だったんですけども、そこには色々な文化が東西にたくさんあって、こういう大きな場所で発表したい事がたくさんあるんだけど、それが歴史的に今もアイヌ民族をすごく侮辱するような斬殺があった場所、それを公表すると、受け方が二分するような事が起きるので、それはできないということなので、何かもどかしく思いながら何もできないと、皆それぞれの地域なかなか難しい問題を抱えているんだなと思って帰ってきました。

大橋委員：私も12、13日と参加しました。赤平の植松さんですか？先日もNHKに出ていまして、社会教育の大会の講演を思い出していました。私は第6分科会に参加しました。他の社会教育委員の方から、定例の2～3回の会議だけではやはり十分な活動はできないんだということを話されていました。その中で蘭越の方とか、石狩もそうなんですけど、自主的に自分たちが取り組んだものを見ながら、社会教育委員としての活動のあり方に触れられていました。私も石狩の活動を発表しますと、どうすればそういう活動ができるのかということを聞かれ、石狩の活動が充実しているなと感じて帰ってきました。

木村委員長：どうもありがとうございます。皆さん大変こう長く聴かれて充実されて参加されたんだと思います。どうもありがとうございました。全国の会長になったのは鈴木眞

さんっていう青山学院の先生で、東大の準教授されていたとき私と同じ世代なんで学会ではよく一緒になって、私の北大の研究会も時々出てきてくれたり、自分の所の大学院生を送ってくれたりしてくれました。副委員長は馬場さんっていう徳島大学の先生で、元々文科省にいらっしゃった方です。来年は青森で、研修を大事な機会として、色々皆さんの希望を聞きながら、できるだけ参加できたら良いなという風に思っております。それではどうもありがとうございました。

引き続き、平成29年度の社会教育委員の取り組みについて移ります。前回の社会教育委員の会議の時に、厚田、浜益について今年度は取り組むということで、おはかりしました。7月、8月にかけて、厚田浜益それぞれの支所の方とお話し合いを持ち、いくつか方法ができましたので、皆さんにおはかりしたいと思います。浜益区における取り組みについての石狩市社会教育委員会の会議の提案、事案この段階では皆さんの了解が得られるかもわかりませんので、私の考えでやらせていただきました。

厚田には直接伺ってお話しをすることができましたが、浜益は支所長さんが公民館に来てくださって、話しました。金曜日に浜益に伺って、今週の月曜日に厚田に伺って、今年度どうでしょうか？ということで一応考が固まりましたので皆さんに一応ご提案をします。

2017年10月以降について、ひとつは、浜益は地域でどんな社会教育の課題があるのか一緒に調べてみませんかという提案です。厚田については、今学校の統合が進んで、たぶんその厚田に学校が整備されて、そこが厚田の中心的な機能になるということだったので、例えば、コミュニティスクールのこととか、山村留学のこととかについて、パネルディスカッションだとか新規事業のようなことしませんかということをご提案しましたが、厚田の方はむしろ地域協議会を中心にして色々な取り組みはもう進んでいるので、今年度は浜益の調査をやる方向になりました。浜益についてはそこに書いてあるような方法で進めることについて合意をしました。2017年10月、浜益区での社会教育委員の会議の活動計画と書いてあるんですけれども、最初一番目は、浜益区における社会教育の課題において検討するための基礎資料を収集してその分析を行なう。2番目は、こっちが大事なんですけれども、地域のキーパーソンへのヒアリングを行います。それは、農業・漁業・行政職員・高齢者、地域協議会の方、学校の先生方の中から支所の方に選んでいただいて、私と浜益の社会教育の担当職員菊地さんと、保健師さんと同行してヒアリングを行うということになります。基本的には、わたくし木村が行いますけれども、いつどなたに会うのか皆さんにお知らせした上で行動したいと思っています。今の所、ボランティアな形ですけれども、10月の末から11月の初めにかけて、私は2泊3日くらいで浜益の民宿に泊まって活動したいなと思っています。

その統計や行政資料の分析とヒアリング結果に基づいて、浜益区の地域作りと社会教育の課題という仮称テーマで、社会教育委員の会議の時に、簡単な報告をさせていただきたいと思っています。ヒアリング調査は、地元ガイドの先生が、過疎地域、過疎や高齢化が

進んでいる地域の集落が果たして将来どういう可能性があるのかという、ただその今いる人たちが高齢化して人口消滅するっていう風ではなくて、むしろその高齢の方がお二人だけになったときに、その方達を支援する地域の体制があるかとか、あるいは家族、一旦脱出した家族の方達が将来帰ってくる可能性があるかどうかとか、そういう流動性も含めてとらえる手法で、地域のキーパーソンとなる方に、こういうことを地域でやってみませんかというような問題提起も含めて、一緒に調査をやっていく。そこには家族のこと仕事のこと老後のこと浜益での現在の暮らしについて石狩市の合併で変わったこと浜益の暮らしで不安に感じていること浜益の魅力、宝はなにか現地域の課題はなにか、あなた自身地域についてどんな学習課題があるか、それから地域の皆さんがどんな社会教育を期待するのか、ヒアリング調査を行いたいと思います。私自身も楽しみにしているので、ボランティアみたいな形でやります。基本的にはお金はできる限りかけずにやりたいと思っています。浜益にはこれをやった後に、どういう課題があって社会教育としてどういうことを取り組む必要があるのかということについて話し合いをすることになると思います。来年度については、もう少し全体的に、社会教育で大切なことは、いわゆる社会的包摂ということと居場所作りだと思います。社会的包摂というのは、皆がこう参加できるような社会を作るっていう事ですね。居場所は、一人暮らしだったり、お年寄りだけで暮らしている方、孤立したり、子育て中のお母さんが誰にも相談相手がいなかったり、非行よりの若者が気軽に相談できる人がいて、時間を過ごすことができるような場所を地域に作っていかうということ。地域の中で色々取り組まれている中で、石狩でそういう取り組みがどこでどれだけ進んで、社会教育としてどういう風に考えたら良いのかというようなことを、来年度はしたらいいと思っています。これは機会を改めて議論をさせていただきたいと思っています。一応今年度はそういう形で進めたいと思っておりますが、このことについて皆さんからは是非ご意見をいただきたいと思っています。

高橋委員：浜益の調査、ヒアリング調査は木村委員長にお任せしといていいんでしょうか。

木村委員長：行く時は、たぶんここから連れていただいたり、この間厚田まで、朝 6 時 52 分のバスに乗って 8 時半に厚田に着き、厚田に浜益から迎えに来てもらって、で 40 分かけて行くっていう感じなんですね。

高橋委員：自分の車で行ったらいいかと。

木村委員長：色々リスクがあるなあと思って。それで、一緒に行く時に、車に私一人乗るスペース、2 人 3 人乗るスペースはあるので、もし一緒にやってみたいなっていう方がいたら、それはそれで大歓迎です。すごく私はやっぱり、地域の人の声を聴くっていうのは

すごく大事なことだと思います。それは、私もそうですが社会教育委員にとっても大事なことだという風に思っていて、それは大歓迎です。向こうのご都合のいい時に調査に向かうので、そのスケジュールを皆さんにお知らせして、皆さんに参加していただけるような体制が取れることであれば、お願いします。ただ、初めからそのために無理をして、向こうの負担をかけるってというような事もしにくいかと思います。

東次長：スケジュールの話なので、浜益支所とよく相談をして、できるだけ早いタイミングで皆さんにできる日をお伝えしご検討いただきます。私たちはそれに車の手配だとかを最大限対応させていただきたいと思います。

木村委員長：宮城県の公民館職員研修が10月18日にあり、講演に行くことになりました。その時に石狩の話をしようと思っています。次に次第のその他に入りたいと思います。平成29年度石狩管内市町村社会教育委員等研修会が北広島市で開催されることと、それから平成29年度フォーラム石狩が江別市で開かれます。栗谷主査から説明をしていただきます。

栗谷主査：私の方から説明させていただきます。

(以降説明)

木村委員長：どうぞ参加できる方は事務局の方に希望を出してください。出たいという人がいたら是非。

斉藤主査：今回が第3回なんですけれども、次回第4回目は例年だと2月くらいにやる予定ですので、日程が決まりましたら皆様にお伝えしたいと思います。

木村委員長：浜益の報告をするのと、来年度、社会的包摂と居場所作り、社会的包摂っていうのは英語ではソーシャルインクルージョンっていうあれですね、菊地桃子さんが一億総活躍国民会議の委員になったときに1億総活躍って難しいですねっていう、その時に社会的包摂という言葉がありますよっていう言葉です。皆さんもこういうことをやった方がいいんじゃないのか？っていうような意見を是非出していただいて、私がこだわっているわけではないので、それでは今日はこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

平成29年11月13日

石狩市社会教育委員の会議 委員長 木村純 印